

第10回刈谷市スマートシティ推進協議会 議事録

- 日時：2025年3月25日（金）13時30分～15時00分
- 場所：刈谷市役所7階大会議室
- 参加者：別紙のとおり
- 議事：

開会

- 挨拶（企画財政部長）
 - ・ 定刻となったため第10回刈谷市スマートシティ推進協議会を開会する。
- 挨拶（会長）
 - ・ 本日は、年度末の大変お忙しい中、ご参加くださり感謝申し上げます。
 - ・ 本協議会が設立されてから、早くも2年半になる。刈谷市スマートシティの取組として令和4年度に5件、令和5年度に7件、令和6年度に11件と、順調にプロジェクトを重ねてきた。
 - ・ 今後も実証を重ねるとともに、実装へのステップを進める。
 - ・ 新技術の完成度や費用対効果の面で、実装に向けての課題もある中、新年度からは過去の実証のフォローアップに注力しつつ1つでも多くの取組を、実証から実装へつなげていく。
 - ・ 本日の議題は、今年度の活動報告、来年度の活動計画と明日から公募を予定する課題解決型実証プロジェクトの4つの課題について担当部署から説明する。
 - ・ 新しい技術やデジタル技術を活用することで、市民生活が変わる、まちの雰囲気が変わる、そんな取組を続けていく。
 - ・ 会員企業の皆様のお力をお借りし一緒にプロジェクトを推進したく、是非応募をいただきたい。
 - ・ 本市は、昭和25年、人口3万人でスタートし、平成28年に人口15万人を超え、大きく成長してきたが、新年度の4月1日をもって、市制施行75周年という節目の年を迎える。
 - ・ 主な記念事業としては、サッカー元日本代表や現役Jリーガーによる「サッカーフェスティバル」や、市内中学生とコラボ演奏である「東京フィルハーモニー交響楽団コンサート」などの開催が予定され、11月1日には、亀城公園において「音楽フェス」を開催予定である。また、11月23日には、「NHKのど自慢」が開催される。是非ご参加いただきたい。
 - ・ このスマートシティの取組は企業の皆様との共創なくして成り立たないものである。皆様から様々なアイデアをいただき議論し、よいプロジェクトを構築していきたい。
- 新規会員あいさつ（株式会社キャッチネットワーク）
 - ・ 今回の協議会から参加させていただくこととなった。
 - ・ 今年度の課題解決型実証プロジェクト「気が利くバス停」へ提案を実施し実証へ取り組んでいる。
 - ・ これから会員企業の皆様と連携して刈谷市の活性化に取り組んでいきたい。

議題 1. 令和 4 年度活動報告について

- 資料 1 「令和 6 年度活動報告について」(企画調整監)
 - ・ 1. 刈谷市スマートシティの活動状況
 - 今年度は書面会議を含めて 4 回開催した。
 - 第 7 回では、昨年度の課題解決型実証プロジェクトの活動報告と、本年度課題解決型実証プロジェクトの選定結果を報告した。
 - 第 8 回は書面にて、課題解決型実証プロジェクトの追加募集を行い、第 9 回は、同じく書面にて選定結果を報告した。
 - 2 月 10 日付けで会員となった株式会社キャッチネットワーク様に本日からご参加いただいている。
 - ・ 課題解決型実証プロジェクト全 5 件を実施した。詳細は 5 月の協議会にて報告を予定する。
 - AI による危険行為検知 & 注意喚起実証プロジェクト (西日本電信電話株式会社)
 - 大人世代がデジタルで見直す交通安全「おとな安全チャレンジ」(株式会社アイシン)
 - キッズガーディアンプロジェクト (トヨタ車体株式会社)
 - オートフォトプロジェクト (トヨタ車体株式会社)
 - かりまるの運行状況が視える気が利くバス停プロジェクト (株式会社キャッチネットワーク)
 - ・ 国プロジェクトとして「刈谷放課後子育て MaaS プロジェクト」を実施した。
 - 昨年度に引き続き利用者満足度が高く、協力企業からも高い評価をいただいている。
 - 成果として「送迎負担が減った」「本格展開を期待」との声が上がっている。
 - ・ 愛知県の補助採択を受けた「刈谷スマートウェルネスプロジェクト」は 10 月から 1 月にかけて実施した。
 - 救急活動の際の映像による医師との連絡は非常に有用との評価をいただいている。
 - ・ 愛知県のモデル事業に採択をされた「メタかりチャレンジ」は、刈谷駅をリアルに再現したデジタルフィールドをつくり、デジタルネイティブ世代の若者に評価してもらうワークショップを、9～12 月に実施した。
 - デジタルフィールドの体験が、リアルでも行ってみるという心象変化や行動変容に一定程度つながっていると評価できる。
 - ・ 愛知県設立のコンソーシアムによる「あいちデジタルヘルスプロジェクト」は、大府市と本市で行った。
 - 高齢者のライフログデータを活用してフレイル予防等の高齢者支援を行うものである。
 - ・ フィールド提供型実証プロジェクトを 3 件紹介する。
 - 高齢者見守り安心機器拡充のための実証
 - 生成 AI ロボットによる角打ち
 - 乗り合い送迎サービス「チョイソコかりや」での人口知能を活用した新機能の実証

議題 2. 令和 7 年度活動報告について

- 資料 1 「令和 7 年度活動報告について」(企画調整監)
 - ・ 刈谷市スマートシティ推進協議会のスケジュール
 - 第 11 回の協議会を 5 月 27 日、第 12 回を令和 8 年 3 月 24 日に予定する。
 - ・ 令和 7 年度実証プロジェクト

- 課題解決型実証プロジェクト実施スキームは、来年度は4件の課題を募集し、1件あたり300万円の委託を予定する。
- 募集課題は4件である。
 - 働く世代の睡眠習慣の改善
 - デジタルがつなぐ子どもの居場所づくり
 - 誰もが足を止めなくなる駅前空間の創出
 - デジタルが導くホームタウンパートナーの認知度向上
- ・ その他の取組予定
 - 「あいちデジタルヘルスプロジェクト」は来年度も継続して行う。
 - 「フィールド提供型実証プロジェクト」については気軽に企画政策課までご相談いただきたい。

議題3. 課題解決型実証プロジェクトの募集課題について

- 働く世代の睡眠習慣の改善（健康推進課）
 - ・ 「働く世代」の心身の健康増進を目指し、その一環として睡眠習慣改善の取組を進めていきたい。
 - ・ 睡眠習慣改善が必要な背景として、働く世代である40～64歳の4人に1人が「睡眠時間が6時間未満」、そして「十分な休養が取れている」と感じる人はわずか1割未満である。
 - ・ 睡眠不足は、生産性の低下や心身の不調を引き起こし、更には重大な事故を招く可能性があり、質・量ともに良質な睡眠は、心身の健康を保つ上で欠かせない。
 - ・ 市は事業所向けの出張型健康講座の実施や、従業員の健康づくりに取り組む事業所の認定や表彰など、健康経営を推進するが、睡眠をテーマとする取組は、ほとんど実績がない。
 - ・ 「従業員の睡眠休養感」と「企業利益」には密接な関係があり、従業員の睡眠習慣の改善は、健康と生産性向上を通じた利益向上に寄与する。
 - ・ まずは従業員の睡眠状況や睡眠課題の認識が必要であり、デジタル技術を活用し従業員の睡眠状況を把握・分析し、事業所向けに労働環境改善を助言し、労務管理の改善と健康経営の推進を図る。
 - ・ 把握・分析にウェアラブル端末やセンサー等を想定し着脱不要で低価格なデバイスを期待する。
 - ・ また、仮眠起床AIシステム等を活用して、仮眠の効果を体感することで、睡眠習慣観をみなおすきっかけづくりとなることも期待する。
 - ・ 本事業の実施により、心身ともに健康な市民を増やすとともに、事業所が従業員一人ひとりの睡眠状況を把握することで労働環境が改善され、健康づくりに取り組む事業所が増加を目指す。
- 質疑応答について
 - ・ 現状の健康推進課の取組は
 - 健康経営に取り組む事業所の認定、一定基準を満たす企業への表彰状授与、ホームページ公表等を推進している。（健康推進課）
 - 刈谷市には睡眠や食などの健康課題が多い分析結果がある。（健康推進課）
- デジタルがつなぐ子どもの居場所づくり（子育て推進課）
 - ・ 背景としては、令和5年12月に閣議決定されたこども大綱において「こどもの視点に立った多様な居場

所づくり」が推進される。

- ・ 「刈谷市こども計画」においても、具体的な取組の中で「子どもの居場所の充実」を掲げており、刈谷市の居場所の機能強化や、新たな居場所を創設することが求められる。
 - ・ 市内子ども対象のアンケートでは3点に着目している。
 - 「困ったときに相談できる人がいない高校生」が約17%いること
 - 「子どもにとって、友達が悩み事の相談相手となっている割合」が高いこと
 - ほっとできる場所として「インターネット空間が高い割合で支持されている」こと
 - ・ インターネット空間がほっとできる場所となっている理由は匿名性の高さもたらす気軽さや安心感がその1つと分析する。
 - ・ このため、刈谷市内の小学生・中学生・高校生が匿名で気軽に交流できる新たな居場所を作りたい。
 - ・ 相談窓口への訪問に抵抗のある子どもや困難な状況という自覚のない子どもも救うために、デジタル技術が役立つのではないかと考える。
 - 匿名で、気軽にアクセスし、交流できるツールとして、メタバースやグループチャット等
 - 交流できる他者がいない場合でも、話し相手となるAIチャットボット
 - 対話の内容に、支援が必要な発言がないか分析するAI技術
 - ・ 実現にあたっては、子どもたちが興味関心を持って、既存のオンライン空間のように、気軽にアクセスしてくれる居場所となることが、肝心かつ難しい課題である。
 - ・ 子どもが、「楽しい」「居心地がいい」と思えて、自然と愚痴や悩みをこぼせるような居場所であり、匿名で子ども同士の交流が図られることで、「誰にも相談できない、悩みを話せない」という苦しみを抱える子どもを減らしたい。
 - ・ 従来のサービスでは掘り起こせなかった悩みを持つ子どもを見つけ、支援につなげることができる重要なツールを期待する。
- 質疑応答について
 - ・ 次年度から始まる事業とは
 - 市としてデジタル技術を活用した居場所づくりに取組、子どもにとって多様な居場所の選択肢が増えることを目指していく。（子育て推進課）
 - 誰もが足をとめたくなる駅前空間の創出（まちづくり推進課）
 - ・ 刈谷駅はJR東海道本線や名鉄三河線が乗り入れ、在り企業への通勤や通学を中心に平日は約7万人が利用されており、令和8年度にはアジア・アジアパラ競技大会が開催され多くの観戦客の往来も見込まれる。
 - ・ 駅の南側には徒歩圏内に病院や図書館、美術館等の公共施設が、北側には多くの飲食店が立地し駅前からはバスも発着していることから、刈谷駅は市内の魅力的なスポットへの拠点となっている。
 - ・ 市では刈谷駅周辺において、にぎわいと活気のあるまちづくりに向け、公共空間を活用したイベントや情報発信、人流計測による効果検証など、様々な取組を行っている。
 - ・ しかし、刈谷駅では駅利用者に対する効果的な発信方法に課題があり、情報発信媒体はポスターや横断幕などアナログで、通行者は素通りし、立ち止まる人もポスターのある壁に背を向けている。
 - ・ デジタルサイネージによる情報発信や、SNS等の活用による発信力の強化をしているが、人々が足を止

- める効果的な発信ができていない状態とはいえない。
- ・ 多くの駅利用者が通行する刈谷駅周辺で、誰もが足を止めるきっかけを作り、効果的な情報発信をすることで「駅前空間のにぎわいと活気の創出」につなげていきたい。
 - ・ 駅周辺の空間で、少し足を止める情報を発信し、待ち合わせなどを楽しく過ごせる、おしゃれで楽しい話題になる駅前空間をデジタル技術で創りたい。
 - AI 技術による人流センシングと、捉えた人の動きをリアルタイムでリンクさせる映像技術、音響コンテンツを組み合わせた演出をしたい。
 - さらに将来の空間設計に向けて、どんな人がどんな情報にどれくらい足を止めるのかなどのデータ収集も行いたい。
 - ・ 市内の魅力的な情報を効果的に発信するため、思わず足を止めてしまう魅力ある駅前空間創出に向けた技術の提案を募集する。
 - ・ にぎわいと活気のある駅前空間の創出に向けて、驚きや感動を提供できる素敵なご提案を期待する。
- 質疑応答について
 - ・ 刈谷駅地域交流拠点（カリコプラス）の設置予定は
 - 令和 7 年度中に自由通路の脇に飲食店と並ぶ形で設置予定であり、本施設と連携して足を止める仕掛けや情報発信をしたいと考えているが、この空間と連携して情報発信ができればいいと考えており、必ず活用しないといけないわけではない。刈谷駅周辺でおもしろい提案を待っている。（まちづくり推進課）
 - デジタルが導くホームタウンパートナーの認知度向上（スポーツ課）
 - ・ 刈谷市では、国内のトップリーグ等で活躍するスポーツチームが、「刈谷市ホームタウンパートナー」として認定され、現在は 9 種目 12 チームが認定されている。
 - ・ 活動は、ウイングアリーナ刈谷や刈谷市体育館等、市内で行われるホームゲームへの市民招待、小中学生向けの「刈谷キラキラ教室」の実施、市の魅力発信への協力など多岐にわたる。
 - ・ 「刈谷キラキラ教室」とは、全国トップレベルの選手等にスポーツ教室の講師を行っていただき小中学生にスポーツの技術や楽しさだけでなく、夢を持って努力することの大切さも伝える目的で開催中である。
 - 夏休み等の長期休み期間にウイングアリーナ刈谷等に集まって開催する「参集型」
 - 学校の体育や道徳の授業に講師が出向いて開催する「派遣型」
 上記 2 形態で実施しており、どちらも好評である。
 - ・ 一方、令和 5 年度に実施した「刈谷市スポーツに関するアンケート」では、18 歳以上の市民は 82.8%、高校生は 49.7%、中学生は 74.2%、小学生は 62.1%と、大人世代に比べて子ども世代の認知度が低いことが判明している。
 - 種目やチームによって教室の開催回数や試合の観戦者数に違いがあり、市民と接する機会の少ないチームもある。
 - ・ 小学校での部活動の廃止、中学校での縮小方針が進むことで子どもがスポーツを「する」機会の減少も危惧されるため、新しい仕組みによりチームとの接点や観戦のきっかけを多く生み、ホームタウンパートナーを身近に感じることで子どものスポーツ離れの抑制につなげたい。
 - ・ 実現する方法として刈谷キラキラ教室を遠隔で参加できる仕組みを取り入れたい。

- 令和7年度に2チーム程度実証を行い、デジタルツールの定着や機能拡大を図ることを想定する。
- オンライン上でもリアルな体験ができるようなツールの提案を募集する。
- 質疑応答について
 - ・ 刈谷キラキラ教室への参加状況は
 - 「参集型」「派遣型」を実施しているが、子どもは部活動の予定などで一定程度参加できない生徒もいるため、そういった生徒がフォローできる仕組みを期待する。(スポーツ課)
- 今後について
 - ・ 発表した4つの課題は、明日刈谷市スマートシティのHPに掲載される。
 - ・ 応募要領・応募様式も掲載するのでご覧いただきたい。

議題 4. その他について

- 次回の予定について(企画財政部長)
 - ・ 次回、第11回の推進協議会は、5月27日(火)午後2時から午後4時まで刈谷市役所7階の大会議室での開催を予定している。

閉会

- 閉会挨拶(企画財政部長)
 - ・ 以上を持って終了する。

以上